

## 新たな国土の将来ビジョン

計画期間：2050年さらにその先の長期を見据えつつ、今後概ね10年間

### 時代の重大な岐路に立つ国土 《我が国が直面するリスクと構造的な変化》

<b>地域の持続性、安全・安心を脅かすリスクの高まり</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>未曾有の人口減少、少子高齢化がもたらす地方の危機</li> <li>巨大災害リスクの切迫(水災害の激甚化・頻発化、巨大地震・津波、火山噴火、雪害等)</li> <li>気候危機の深刻化(2050年カーボンニュートラル、生物多様性の損失)</li> </ul>	<b>コロナ禍を経た暮らし方・働き方の変化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>テレワークの進展による転職なき移住等の場所にとられない暮らし方・働き方</li> <li>新たな地方・田園回帰の動き、地方での暮らしの魅力</li> </ul>	<b>激動する世界の中での日本の立ち位置の変化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>DX、GXなど激化する国際競争の中での競争力の低下</li> <li>エネルギー・食料の海外依存リスクの高まり</li> <li>東アジア情勢など安全保障上の脅威の拡大</li> </ul>
--	--	---

豊かな自然や文化を有する多彩な地域からなる国土を次世代に引き継ぐための**未来に希望を持てる国土の将来ビジョン**が必要

### 目指す国土の姿 「新時代に地域力をつなぐ国土 ～列島を支える新たな地域マネジメントの構築～」

<b>デジタルとリアルの融合による 活力ある国土づくり</b> ～地域への誇りと愛着に根差した地域価値の創造～	<b>巨大災害、気候危機、緊迫化する国際情勢に対応する 安全・安心な国土づくり</b> ～災害等に屈しない強靱な国土～	<b>世界に誇る美しい自然と多彩な文化を育む 個性豊かな国土づくり</b> ～森の国、海の国、文化の国～
--	--	---

国土づくりの戦略的視点 ①民の力を最大限発揮する官民連携 ②デジタルの徹底活用 ③生活者・利用者の利便の最適化 ④縦割りの打破(分野の垣根を越える横串の発想)

※南北に細長い日本列島における国土全体での連結強化  
※広域レベルからコミュニティレベルまで重層的な圏域形成

### 国土構造の基本構想 「シームレスな拠点連結型国土」

<b>〈広域的な機能の分散と連結強化〉</b> 階層間のネットワーク強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 中枢中核都市等を核とした広域圏の自立的発展と広域圏間の交流・連携の強化</li> <li>◆ リニア中央新幹線、新東名・新名神等により三大都市圏を結ぶ「日本中央回廊」(仮称)の形成による地方活性化、国際競争力強化</li> </ul>	<b>〈生活圏の再構築〉</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 生活に身近な地域コミュニティの再生(小さな拠点を核とした集落生活圏の形成、都市コミュニティの再生)</li> <li>◆ 地方の中心都市を核とした市町村界にとられない新たな発想からの地域生活圏の形成</li> </ul>	<b>デジタルの徹底活用による場所や時間の制約を克服した国土構造への転換</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 東京一極集中の是正</li> <li>➢ 国土の多様性(ダイバーシティ)、持続性(サステナビリティ)、強靱性(レジリエンス)の向上</li> </ul>
---	---	---

《国土の刷新に向けた重点テーマ》

### デジタルとリアルが融合した地域生活圏の形成

- 「地方の豊かさ」と「都市の利便性」の融合
- 生活圏人口10万人以上を一つの目安として想定した地域づくり(地域の生活・経済の実態に即した市町村界にとられない地域間の連携・補完)
- 「共」の視点からの地域経営(サービス・活動を「兼ねる、束ねる、繋げる」発想への転換)
  - ✓ 主体の連携、事業の連携、地域の連携
- デジタルの徹底活用によるリアルの地域空間の質的向上
  - ✓ デジタルインフラ・データ連携基盤・デジタル社会実装基盤の整備、自動運転、ドローン物流、遠隔医療・教育等のデジタル技術サービスの実装の加速化
  - ✓ 地域交通の再構築、多世代交流まちづくり、デジ活中山間地域、転職なき移住・二地域居住など、デジタル活用を含めたリアル空間での利便性向上
- 民の力の最大限活用、官民パートナーシップによる地域経営主体の創出・拡大

相互連携による相乗効果の発揮

### 持続可能な産業への構造転換

- GX、DX、経済安保等を踏まえた成長産業の全国的な分散立地等
- 既存コンビナート等の水素・アンモニア等への転換を通じた基幹産業拠点の強化・再生
- スタートアップの促進、働きがいのある雇用の拡大等を通じた地域産業の稼ぐ力の向上 等

### グリーン国土の創造

- 広域的な生態系ネットワークの形成、自然資本の保全・拡大、持続可能な活用(30by30の実現、グリーンインフラの推進等)を通じたネットワーク化)
- カーボンニュートラルの実現を図る地域づくり(地域共生型再エネ導入、ハイブリッドダム等) 等

### 人口減少下の国土利用・管理

- 地域管理構想等による国土の最適利用・管理、流域治水、災害リスクを踏まえた住まい方
- 所有者不明土地・空き家の利活用の円滑化等、重要土地等調査法に基づく調査等
- 地理空間情報等の徹底活用による国土の状況の見える化等を通じた国土利用・管理DX 等

地域の安全・安心、暮らしや経済を支える

### 国土基盤の高質化

防災・減災、国土強靱化、生活の質の向上、経済活動の下支え  
〔機能・役割に応じた国土基盤の充実・強化〕

計画的な整備、維持管理更新、効果的活用を通じた

### 戦略的マネジメントの徹底によるストック効果の最大化

- ✓ DX、GX、リダンダンシー、安全保障、自然資本との統合等の観点からの機能高度化
- ✓ 賢く使う観点からの縦割り排除による複合化・多機能化・効果最大化
- ✓ 地域インフラ群再生戦略マネジメント等の戦略的メンテナンスによる持続的な機能発揮

### 地域を支える人材の確保・育成

包摂的社会に向けた多様な主体の参加と連携  
こども・子育て支援、女性活躍 関係人口の拡大・深化

新しい資本主義、デジタル田園都市国家構想の実現

## 分野別施策の基本的方向

- |   |  |   |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の整備(コンパクト+ネットワーク、農山漁村、条件の厳しい地域への対応等)</li> <li>○産業(国際競争力の強化、エネルギー・食料の安定供給等)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○文化及び観光(文化が育む豊かで活力ある地域社会、観光振興による地域活性化等)</li> <li>○交通体系、情報通信体系及びエネルギーインフラ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○防災・減災、国土強靱化</li> <li>○国土資源及び海域の利用と保全(農地、森林、健全な水循環、海洋・海域等)</li> <li>○環境保全及び景観形成</li> </ul> |
|---|--|---|

## 計画の効果的推進 広域地方計画の策定・推進

- 地理空間情報等を活用したマネジメントサイクルと評価の実施
- 広域地方計画協議会を通じた広域地方計画の策定・推進

# (参考)第16回計画部会における主な御意見①

## キーコンセプト

- 今、歴史的な大転換点に来ている、その切迫感を背景に端的なキーワードを使いながら計画の意図を伝えるのが大事。
- 市町村界にとらわれない地域間の連携・補完や、主体の連携といった言葉が特に重要。
- 都市圏に対して地方圏の維持・形成などを訴えるものであるという点も踏まえてコンセプトを検討いただきたい。
- 地域力維持刷新型国土形成といったイメージが望ましい。国土が主役となって、地域が変わることを支えるイメージが重要。
- 地域生活圏が4つの重点テーマのハブになるような関係性であれば、キーコンセプトを打ち出す際の重要な論点となる。国土構造の基本構想に関しては、重層的な圏域構想が特徴。
- 4つのテーマに関わるwell-being向上、経済的な価値創出、グリーン・サステナブル、安全安心の4つの価値統合型国土と理解しており、それぞれのオーバーラップが重要。
- 若者にとって魅力あるまちにしていくことは優先度の高い課題。多極分散では低密度になりすぎてしまう。多極集中という考え方がよい。多極集中は、住まいまで集中するのではなく、むしろコミュニティの拠点的なものが、小さな規模のものまで含めてあるというイメージ。
- 農村部では集中・集住がよいとは思わない。低密度を前提に、デジタルを導入し、コミュニティの力で地域交通等を刷新していくべき。
- 危機に対して、変わらないといけないので、刷新ということが近い。より強くは、変わり続けるということであり、マネジメントやガバナンス、さらには人材とすることが必要になる。集中か分散かだけで表現するのはもう限界にきており、多層的にレイヤーで捉えざるを得ない。
- 「新しい時代への地域と国土づくりへの挑戦」や「デジタル化によるオンラインとリアルとの融合」といった言葉を検討してほしい。
- 「デジタル」の打ち出しが必要ではないか。
- 普通の市民の方がいかにこういった取組に参加していただけるかということが非常に重要。
- 主役は国民。暮らしがどう変わるかを見せないと、他人事に見えてしまう。国民が本計画を応援しようと思えるものにしたい。
- 過去のキーコンセプトは漢字かカタカナばかりで、ひらがながない。強靱だと固いイメージだが、「しなやか」とすれば、また、活力であれば「いきいき」「のびやか」と言い換えればとっつきやすい表現になるのでは。
- わかりやすい発信だけでなく、国民の気持ちやニーズの受信も含めたPRが必要。

## 時代の重大な岐路に立つ国土

### 目指す国土の姿

- 危機の時代を考えると、何をいつまでに達成するという目標を明瞭にしたい。
- 地方分権はいいが、国民の安全に関しては、地方のやり方に任せず、より統合的な方向にもっていく必要がある。
- リスクから目を背けず、課題に真正面から向き合うということを考え方に入れて、概念論で終わらせず、自分ごとと捉えてもらう必要。
- 確実な問題解決には、国土形成計画の前提として現状とリスクの共有が必要。最終的には多くの方に、わかりやすく表現してほしい。
- 極めて重大な災害が起きた後の国土のあり方を考える必要。

# (参考)第16回計画部会における主な御意見②

## 国土構造の基本構想

- 広域での連携があって小さい単位へという流れになっているが、ボトムアップという議論をしてきたので、順番は逆のほうがいいのでは。
- 広域ブロックや市町村連携、集落を越えた連携、それぞれの階層においてどんな役割を担うのかということ明示した方がよい。さらに、それを実現する仕組みや官民連携の具体的な達成方策についても検討が必要であり、当事者意識を持つような環境づくりが必要。
- 中枢中核都市を核とする広域圏の形成を各自治体の計画や広域地方計画で目指すことになり、国の強いメッセージを出すことになる。
- 広域地方計画もオーバーラップの視点が重要。地域完結ではなく、関係性を持ってオーバーラップし、複眼的国土という概念が反映されるようにしてほしい。一つの都市だけでは無理で、広域化しないと東京一極集中の流れが止められない。多極集中は事実上始まっており、デジタルを使った生活圏の再構築や都市部でのコミュニティ再生が必要。

## デジタルとリアルが融合した地域生活圏の形成

- 地域生活圏における「共の視点」、「連携」は重要。地方の限られた経営資源では、これまで以上に事業連携の視点を取り入れ、連続性や出口を意識したサービス・活動の設計が求められる。地方ならではのニーズに刺さるサービス・活動の設計でないと、住民の満足度が向上しない。地域生活圏の実行性の面で、国・地方の関係、地方同士の関係など統治構造の議論は、今後避けては通れない。
- 今後2030年に向けてローカル鉄道の廃止が問題になる中で、公共交通のあり方、特に公的な負担についてもっと議論が必要。

## 持続可能な産業への構造転換

- スタートアップをいかに活用していくかという点を強調したらどうか

## グリーン国土の創造

- 自然資本、生態系、生物多様性といった従来それほど強調されていなかった新たな時代のテーマを重視していい。

## 地域を支える人材の確保・育成

- 小学校とかで地域を愛する人材を育て、そこに地域の方も参画をするようなことも非常に重要。
- 女性活躍は、女性だけをターゲットにするのではなく、男性の暮らし方や働き方の選択肢を広げる必要があることを明確化すべき。
- 女性の処遇の問題と矮小化することなく、もっと大きく深く捉え、もっと根本的な社会転換にもっていき物言いが大事
- 女性活躍も重要だが、外国人人材の活用については、外国人に選ばれるまちづくり、国づくりという考え方も重要。
- 外国人材の捉え方は、スポーツ界などをみてもこの5年で変わったと感じる。国籍、民族によらず、多民族という考え方を入れてはどうか。
- ダイバーシティとインクルージョンについての考え方を整理してほしい。

## エネルギー・食料の安定供給

- 食料安全保障は、農地、労働力、資材や技術、フードシステム全般にわたるもの。昨年末の食料安全保障強化政策大綱に位置づけられた農水省の政策だけで足りるというものではなく、国土計画的なバージョンアップが必要。